

ああ、そんなこと、どっかぞうらしたことがあるわ。せやけど「ココ山岡」ちやうのがなア.....

誰かが意見を出すたびに、一同の気持は右に左にゆれました。時間は、とくに午前1時をまわっています。えーか！ほんなら最後の投票するまで、最後やから、格好つけて無記名投票や、紙にどっちか書いてや、両方書くのんじやで、とかなんとかいううちに、フいに決定の跡がやってきました。なかなかみんなきめられません...。ようやく用紙が出そろって、ホワイトボードに正の字が書かれています。一進一退、めざつめがれつ...。そしてとうとう二票の差で「ココ」に決まった一瞬...。誰も何もいいません。ふつうなら、こんだけうきうきして、カンカンガクガクの末に決まったんやから、ワーッと叫聲が上がったり、拍手があってもいいのに、一同シーンとしているのです。難産の末の仮死状態での出産という感じでした。「かざぐるま」執心していた指導員の西村さんは、心の整理に一晩かかったそうです。こうして、ほとんどビョーキの命名劇はその幕を閉じたのであります。

いろいろお化粧やアングをくっつけた正式名称「障害者」とともに生る生活の場「ココの家」が、ココに呱呱の声をあげました。ある哲学者にいわせると、命名というものは、それ自体広い意味での呪術行為で、ものを零から生み出すことだとのことのです。さすれば、あの夜、私たちは愚かれたように、ゼロから何かを生み出す呪術的儀式を行っていたということになるのだでしょうか。

ともあれ、あれから1ヶ月あまり。4月1日からは実際に生活の場は動き出し、電話にも「ハイ、ココの家です」とスラリと出てくるようになりました。名前の評判もますますです。

でも、そうと決まったあとで、あらためてみると、ココの名前がまたやたらと目につくのです。最近の女性の親午のグループに「ココ」っていうのがあるなんて、我々甲午のおっちゃんやおばちゃんには全く知らなかったし、「ココ」チャンネルはまあいいとして、ココ向梅田を歩いていて、ちよと横道に走るとそこに、「二人に優しいナントカ... ココってラブホテルの看板がありました。えっと思いつながら、なるほどくいま、ココを一番燃えてあげすにはいい名前かなんて思ったり...。決まったあと初めてフランス語の辞書にあたってみると、ココ(COCO)には、ココナッツから、頭、胃、ガヤリン、卵、車には、イカインや共産主義者という意味まで、でくくわでくくわでびゅくりしてり...

それにもう一つ。イメージキャラクターをつくらうということになって、知人のデザイナー下地さんに頼んでいろいろ描いてもらうことになりました。その一つが偶然狐だったんです。ああやうか、ココは狐狐でもあんなか、信太の狐は葛の華物語で全国的に有名なし...、おしこいごいこうと取りました。これもあとから気づいたことです。本当にいろいろと楽しませてもらいました。難産で仮死状態で生れた「ココ」も、今はすくすくと育つ気配をみせています。どうか今後其、皆さんのおあいだで、じっくり育てたいと思いますようお祈り致します (K)